

第6回まちづくりビジョン策定委員会会議報告

日 時	平成22年 3月24日(水) 13:30~15:50
場 所	大栄農村環境改善センター 青年研修室
出席者	福井利明委員長 進木富夫副委員長 田中良夫委員 福山 浩委員 種子至剛委員 飯田鈴子委員 山信幸朝委員 三谷里美委員 福谷則枝委員 林 邦臣委員 竹歳美穂子委員 (欠席) 岩田由美委員、淀瀬千賀子委員、徳岡幸裕委員 (事務局) 田中課長、大庭室長、中野主任
内 容	<p>開会</p> <p>あいさつ</p> <p>委員長：いよいよこの会も素案ができるところまで来た。詰めるべきところは後わずかなり、委員みなさんの思いが十分に反映させられるよう詰め上げていきたいので、よろしく願いしたい。</p> <p>協議</p> <p> まちの将来像について</p> <p> ワーキンググループの協議結果を各責任者が報告</p> <p> 町の将来像「人と自然が共生し確かな豊かさを実感するまち」に決定</p> <p>委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治基本条例の前文に規定している「人と自然が共生しあたたかい心のふれあうまち」は、こういう町を目指すという一つの方向性を示している。ビジョンの将来像は形として見えてくるものでなければならないのでは。 ・「実感できる」というのはとてもいいフレーズだと思う。今求められているのは国民の満足度である。幸せの数値化というようなことが今語られるようになった。これまでは経済(例えばGDP)はどうだ、などとランク付けして競ってきた。これからは幸せ度を問われるようになり、価値観をしっかりと検証していこうという時代になってきた。そういう背景を受け、町長の2期目のマニフェストにある「確かな豊かさを実感するために」というのは一つの判断基準としてみればとてもいいものだということで提案した。 ・今町として目指すものは住民満足度。将来像を具体的にするか抽象的にするかでかわるのでは。 ・2グループと4グループの提案を合わせてはどうか。「人と自然が共生し」というのはこの町の特徴をよく表している。「確かな豊かさを～」は今求められているもの。 ・「共生」という言葉は一般町民には理解しにくい。ほかの言葉に置き換えてはどうか。

編のタイトルについて

ワーキンググループの協議結果を各責任者が報告

第2編「いきいきしたまちづくり」「ゆたかなまちづくり」

・子どもがのびのびと育ち、文化・スポーツを通じ、誰もが生涯を心ゆたかに過ごせるまち

素案のまとめ

表現、言い回しなどについて、委員から出た意見をもとに事務局で修正する。

その他

今後の取り組み予定について、各種団体等への説明、パブリックコメントの実施などのスケジュールについて確認。

閉会